教学入門⑧　宿命転換

問１　適切な言葉を入れて文章を完成させなさい。

仏法では、今世で説明がつかない苦難の原因は（　１　）世における行為、すなわち（　２　）の結果であると説きます。生命は（　１　）世・現在世・（　３　）世の三世にわたります。（　１　）世の行為が因となって現在世の結果となり、現在世の行為が因となって（　３　）世の果となるとみます。

ア、過去　　イ、現在　　ウ、未来　　エ、宿業

問２　適切な言葉を入れて文章を完成させなさい。

過去からの苦しみから逃れられない他の宿命論に対して、（　４　）を説くのが日蓮大聖人の仏法です。あらゆる悪を生む根源の悪は法華経への誹謗、すなわち（　５　）であり、それゆえに正法流布を実践することによって今世において転換できます。
広宣流布に戦うと必ず苦難に直面しますが、妙法流布の実践力によって本来の重い罪業を軽く受けて消滅させることができます。この法理が（　６　）です。
御書には「（　７　）の苦（くるし）みぱっときへて」と仰せです。

ア、転重軽受　　イ、地獄　　ウ、謗法　　エ、宿命の転換　　オ、常の因果

問３　適切な言葉を入れて文章を完成させなさい。

信心を貫く私たちは、仏法の正しさを証明するために、自ら願って業を背負って悪世に生まれてきました。これを（　８　）といいます。悪業で苦しむ衆生と同じく苦難を受けて苦難を乗り越える模範を示すとの菩薩の誓願です。
池田先生はこの法理を「（　９　）を（　１０　）に変える」と示しています。

ア、宿命　　イ、願兼於業　　ウ、使命　　エ、転重軽受　　オ、宿命転換

問４　文章を完成して下さい。

私達の宿命は（　１１　）によって形成されています。
その宿命は、（　１２　）によって転換できます。
過去世から積み重ねてきた宿業を今世において軽い報いを受けて滅することを（　１３　）といいます。

１１　ア、生まれついた環境　イ、過去世の自身の行為　ウ、神仏により決められた役割
１２　ア、諸天善神の計らい　イ、妙法の受持と実践　ウ、慈善事業等の社会貢献
１３　ア、転重軽受　イ、灰身滅智　ウ、因果応報